

「 母の経験から学ぶ災害への考え方 」

宮崎県 小林市立野尻小学校 6年 猪尾 瑞々寧

今年の夏休み、私は母と一緒に、母が子供のころに土砂災害を体験した場所に行きました。そこには今、「砂防えん堤」という大きなコンクリートの分厚いかべが作られていて、山がくずれないようにしっかりと守られていました。私はその景色を見ながら母から土砂くずれが起きた日の話を聞きました。

母が小学校4年生のころの夏に大雨が降り続き、突然山がくずれ、大量の土砂が流れこみ、あつという間に水が増え、家の周りは、母のむねの高さまで水が浸かってしまったそうです。近くにあった鶏舎からは、泥まみれになった、たくさんの鳥たちが流れてきて、まるでホラー映画を見ているようだったそうです。母たちは、とても不安で避難経路も真っ黒で見えない中、真夜中に消防団の方々が助けに来てくれて、ロープを握りながらなんとか安全な場所に避難出来たそうです。その時に、命を守ってくれた人たちのことは、今でもはっきりと覚えていてとても感謝していると話をしてくれました。

その話を聞いて、私は自然災害の怖さと同時に人の力のすごさも感じました。

今では、くずれた山の部分は分厚いコンクリートのかべでおおわれていて、同じようなことが起きないように工事をされています。砂防えん堤を見て、たくさん的人が力を合わせて、「この場所を守ってくれているんだな」と改めて思いました。

私の家の近くには、「土石流危険渓流」と赤と白の看板が立っています。

警戒情報が出ると、母はすぐに避難の準備を始めます。家族全員の荷物をまとめたり、避難所までの道を確認したり、私にも「すぐに動けるようにしてね。」と声をかけてくれます。母が経験したような思いはもう誰にもしてほしくありません。そのためには、いつ災害が起きてもおかしくないという気持ちで、日ごろからしっかりと準備しておくことが大切だと私は思います。そして災害が起きた時には、自分の命を守るためにすぐ行動することが必要です。様子を見るのではなく早めに、避難することが、大切な家族を守ることにつながります。私はこれからも、命を守る行動を心がけて、生活していきたいと思います。

そして将来は、家族を助けてくれた消防団の人のように、人の命を守ることができる仕事に就きたいと思っています。特に私は、病気やケガをした人を助ける看護師になりたいという夢があります。看護師は、病院だけでなく災害の時にも人の命を守る大切な仕事です。そのために、今できることを少しづつ頑張っていきたいです。